



平成26年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 味の素株式会社

上場取引所 東

コード番号 2802 URL <http://www.ajinomoto.com/jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 伊藤 雅俊

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 小林 幸彦

TEL 03-5250-8161

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	742,322	0.6	50,812	16.6	56,791	13.6	37,049	32.0
25年3月期第3四半期	746,856		60,931	8.9	65,766	6.0	54,447	29.7

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 70,020百万円 (2.5%) 25年3月期第3四半期 71,824百万円 (963.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	60.02	
25年3月期第3四半期	82.99	

(注) 25年3月期第3四半期の売上高に係る対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及修正が行われたため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	1,115,328	682,693	55.9	1,020.06
25年3月期	1,091,741	691,710	58.2	1,004.38

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 623,815百万円 25年3月期 635,287百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期		8.00		10.00	18.00
26年3月期		10.00			
26年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,032,000	4.8	68,000	4.5	74,000	4.1	48,000	0.8	77.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 売上高に係る対前期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及修正が行われたため、遡及修正後の前期数値と比較して記載しております。

(注) 現時点、次期中期計画の前提となる当期の業績予想については精査中であり、平成25年11月6日公表の業績予想から変動がある場合には、速やかに公表致します。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	614,115,654 株	25年3月期	635,010,654 株
26年3月期3Q	2,566,645 株	25年3月期	2,496,068 株
26年3月期3Q	617,230,746 株	25年3月期3Q	656,072,344 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は平成26年1月31日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間より、コーヒー・油脂事業等の総発売元取引の売上高の計上について会計方針の変更を行っており、適及処理後の数値で前年同四半期比較を行っております。詳細は、P. 5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）における世界経済は、米国では緩やかな景気回復傾向にあり、欧州では景気は持ち直しの兆しがみられるものの、新興国における経済成長の鈍化の影響もあり、全体として弱い回復となりました。

わが国経済は、長引く円高が是正され、個人消費や設備投資に持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかながら回復しつつあります。

食品業界におきましては、食品原料の価格が高い水準にあり、一部の商品で値上げの動きがあるものの厳しい状況が続いております。

このような環境下にあります、味の素グループは、平成23年からの3年間を「確かなグローバルカンパニー」となるための基盤作りの期間と位置づけ、「グローバル成長」、「R&Dのリーダーシップ」という二つのドライバーが導く成長と、「量から付加価値へ」、「利益からキャッシュへ」、「資本効率視点を高め、株主価値の向上へ」の三つの事業構造強化策に着実に取り組んできました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、為替の影響を受けたものの、カルピス株式会社（以下、カルピス社）製品の売上げが前第2四半期連結累計期間まで含まれていたこともあり、前年同期を45億円下回る7,423億円（前年同期比99.4%）となりました。同営業利益は、カルピス社製品の影響に加えて、飼料用アミノ酸事業の減益等により、前年同期を101億円下回る508億円（前年同期比83.4%）、同経常利益は前年同期を89億円下回る567億円（前年同期比86.4%）となりました。同四半期純利益は、前第2四半期連結会計期間に計上した厚生年金基金代行返上益等の影響がなくなり、前年同期を173億円下回る370億円（前年同期比68.0%）となりました。

セグメント別の概況

セグメント別の業績は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、P. 11

「（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

（単位：億円）

	売上高	前年同期増減	前年同期比	営業利益	前年同期増減	前年同期比
国内食品	2,549	△590	81.2%	227	△64	78.1%
海外食品	2,194	440	125.1%	197	43	127.9%
バイオ・ファイン	1,669	205	114.0%	50	△63	44.3%
医薬	387	△171	69.4%	28	△17	61.6%
その他	622	70	112.7%	4	0	116.5%
合計	7,423	△45	99.4%	508	△101	83.4%

（注）1. 平成24年10月1日にカルピス社の株式を譲渡したことに伴い、前第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日～平成24年12月31日）から同社を連結の範囲から除外しておりますが、前年同期の国内食品セグメントには同社の業績が含まれております。

（注）2. 国内外の食品加工業向け「アクティバ®」類、天然系調味料および冷凍食品は、国内食品セグメントに区分されております。

（注）3. 第1四半期連結会計期間より、バイオ・ファインセグメントの「医薬中間体」を「製薬カスタムサービス」に名称を変更しております。

(国内食品セグメント)

国内食品セグメントの売上高は、カルピス社製品の売上げが前第2四半期連結累計期間まで含まれていた影響等の

ため、前年同期を590億円下回る2,549億円(前年同期比81.2%)となり、営業利益は、前年同期を64億円下回る227億円(前年同期比78.1%)となりました。

なお、カルピス社製品の影響を除くと、売上高は、ギフト製品の売上げが減少したものの、冷凍食品の売上げが伸びたこともあり、前年同期を3億円上回る2,549億円(前年同期比100.1%)となり、営業利益は、主に原材料等の仕入価格上昇に伴うコスト増や販売費の増加等により、前年同期を16億円下回る227億円(前年同期比93.3%)となりました。

<調味料・加工食品>

家庭用は、キューブ状の鍋用調味料「鍋キューブ®」の売上げが前年同期を大きく上回り、チューブタイプのペースト中華調味料「Cook Do®(クック ドゥ)」香味ペーストおよび和風・洋風の合わせ調味料「Cook Do®(クック ドゥ)きょうの大皿」の寄与に加え、中華合わせ調味料「Cook Do®(クック ドゥ)」の売上げは前年同期を上回りましたが、ギフト類の売上げが前年同期を下回ったため、全体としては前年同期の売上げを下回りました。

業務用は、食品用酵素製剤「アクティバ®」および天然系調味料は、海外の販売が好調に推移し、為替の影響もあり、前年同期の売上げを上回り、外食用調味料は、機能型食品の伸長はあったものの、国内大手需要家への販売が減少したこと等により、売上げは前年同期を下回りましたが、全体としては前年同期の売上げを上回りました。

<冷凍食品>

家庭用は、テレビ広告と連動した販売活動を展開した「ギョーザ」や「洋食亭®」ハンバーグシリーズの売上げが伸びたものの、「やわらか若鶏から揚げ」等の売上げが伸び悩み、前年同期並みとなりました。業務用は、前年同期の売上げを上回り、海外では、北米の売上げが前年同期を大きく上回り、全体として増収となりました。

(海外食品セグメント)

海外食品セグメントの売上高は、為替の影響に加え、現地通貨ベースでの売上げも伸び、前年同期を440億円上回る2,194億円(前年同期比125.1%)となりました。営業利益は、加工用うま味調味料の販売価格低下等の影響はあったものの、為替の影響、コンシューマーフーズの増収等により、前年同期を43億円上回る197億円(前年同期比127.9%)となりました。

<コンシューマーフーズ>

アジアでは、缶コーヒー「Birdy®(バーディ)」等の飲料の現地通貨ベースでの売上げは前年同期を下回ったものの、為替の影響に加え、フィリピンやベトナムにおけるうま味調味料「味の素®」、タイにおける風味調味料「RosDee®(ロッディー)」、インドネシアにおける風味調味料「Masako®(マサコ)」、ベトナムにおける風味調味料「Aji-ngon®(アジゴン)」、および即席麺の現地通貨ベースでの売上げが前年同期を上回り、大幅な増収となりました。

米州では、為替の影響に加え、ブラジルにおける風味調味料「Sazón®(サゾン)」、および即席麺等の現地通貨ベースでの売上げが前年同期を上回ったことにより、大幅な増収となりました。

欧州・アフリカでは、うま味調味料「味の素®」および即席麺の現地通貨ベースでの売上げが前年同期を上回り、また為替の影響もあり、前年同期の売上げを大きく上回りました。

以上の結果、全体として大幅な増収となりました。

<加工用うま味調味料>

食品加工業向け「味の素®」および核酸は、国内では、販売数量が減少するとともに販売価格が低下したため、前年同期の売上げを下回りましたが、海外では、競合会社の増産に伴う市場価格の低下はあったものの、為替の影響に加え、販売数量が増加したことにより、前年同期の売上げを大きく上回り、全体として増収となりました。

(バイオ・ファインセグメント)

バイオ・ファインセグメントの売上高は、為替の影響に加え、第1四半期連結会計期間から連結子会社となった味の素アルテア社の売上げが加わり、また医薬用・食品用アミノ酸や化成品の売上げが伸びたこともあり、前年同期を205億円上回る1,669億円(前年同期比114.0%)となりました。営業利益は、医薬用・食品用アミノ酸や化成品が売上げの伸長に伴い増益となったものの、飼料用アミノ酸が販売価格の下落の影響を受けて大幅な減益となり、前年同期を63億円下回る50億円(前年同期比44.3%)となりました。

<飼料用アミノ酸>

リジンは、販売価格が前年同期を大幅に下回り、販売数量も前年同期を下回ったため、為替の影響はあったものの減収となりました。スレオニンは、販売価格は前年同期を下回ったものの販売数量が増加し、トリプトファンは、販売価格および販売数量が前年同期を上回り、加えて為替の影響もあり、いずれも大幅な増収となりました。以上の結果、全体として増収となりました。

<アミノ酸>

医薬用・食品用アミノ酸は、為替の影響に加え、北米および欧州を中心に売上げを伸ばしたことから、前年同期の売上げを大幅に上回り、甘味料は、南米におけるアスパルテームを使用した粉末ジュース「Refresco MID®（リフレスコミッド）」の販売数量が増加したことや為替の影響等を受けて前年同期の売上げを上回り、製薬カスタムサービスは、為替の影響もあり、欧州の売上げは前年同期を上回り、また第1四半期連結会計期間から連結子会社となった味の素アルテア社の売上げが加わったこともあり、前年同期の売上げを大きく上回りました。以上の結果、全体として大幅な増収となりました。

<化粧品>

大手需要家向けの化粧品原料の売上げが前年同期を大きく上回り、コンピュータ用の層間絶縁フィルムは、高付加価値品の売上げが伸び、為替の影響もあり、大幅な増収となりました。

(医薬セグメント)

医薬セグメントの売上高は、前年同期を171億円下回る387億円（前年同期比69.4%）となりました。営業利益は、売上高の減少を受けて、前年同期を17億円下回る28億円（前年同期比61.6%）となりました。

自社販売品は、昨年7月から販売を開始した胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン®」および当年6月から販売を開始した経口腸管洗浄剤「モビプレップ®」の貢献等があったものの、第2四半期連結会計期間から持分法適用会社であるエイワイファーマ株式会社に輸液・透析事業を移管したことに伴い、当該事業の製品の売上げがなくなったこともあり、大幅な減収となりました。

提携販売品は、競合品の影響により、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類や骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドロネート類の売上げが前年同期を大きく下回り、ロイヤルティ収入も減少したため、大幅な減収となりました。

(その他)

その他の事業の売上高は、前年同期を70億円上回る622億円（前年同期比112.7%）となり、営業利益は4億円（前年同期比116.5%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は、前期末の1兆917億円に対して235億円増加し、1兆1,153億円となりました。これは主として円安により在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が増加したことによるものです。なお、自己株式の取得やアルテア・テクノロジーズ社（以下、アルテア社）の全株式の取得等により現金及び預金は減少しましたが、アルテア社の全株式を取得したことに伴いのれんが増加しております。

負債残高は、前期末の4,000億円に対して326億円増加し、4,326億円となりました。これは主に退職給付に関する会計基準等の早期適用により退職給付に係る負債が増加したことによるものです。有利子負債残高は、前期末に対して198億円増加し、1,391億円となりました。

純資産は、円安により為替換算調整勘定が増加した一方で、自己株式の消却や退職給付に関する会計基準等の早期適用により、前期末に対して90億円減少しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は、6,238億円となり、自己資本比率は55.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点、次期中期計画の前提となる当期の業績予想については精査中であり、平成25年11月6日公表の業績予想から変動がある場合には、速やかに公表致します。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できるようになったことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しました。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率から単一の加重平均割引率へ変更し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過措置に従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上したことに伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首のその他の包括利益累計額が26,887百万円減少し、利益剰余金が6,975百万円減少しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

(総発売元取引の売上高の計上方法の変更)

従来、当社はコーヒー・油脂事業等の総発売元取引について、売上高及び売上原価を総額で計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更いたしました。

この変更は、一部の商品について総発売元としての機能を終了したことに伴い、代金請求・回収事務および回収リスクを負担している同様な取引について契約内容および取引実態を検証した結果、当社が担っている機能が実質的に取引仲介機能となることから、今後は取引総額ではなく純額で売上計上する方法を採用することで、当社が担う機能をより適切に反映し、事業構造に即して経営成績をより分かりやすく表示するために行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第3四半期連結累計期間については遡及適用後の連結財務諸表となっております。

これにより、遡及適用前と比較して、前第3四半期連結累計期間の売上高及び売上原価はそれぞれ143,836百万円減少しておりますが、売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、前第1四半期連結会計期間の期首の純資産額に対する累積的影響額及び前第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報に対する影響はありません。

なお、セグメント情報に与える影響については、P. 10「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	186,501	138,775
受取手形及び売掛金	197,568	204,889
有価証券	417	595
商品及び製品	102,550	111,431
仕掛品	7,701	7,985
原材料及び貯蔵品	49,566	50,775
繰延税金資産	9,077	10,734
その他	33,786	42,136
貸倒引当金	△1,095	△1,213
流動資産合計	586,074	566,110
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	348,963	355,739
減価償却累計額及び減損損失累計額	△215,961	△218,286
建物及び構築物(純額)	133,002	137,453
機械装置及び運搬具	528,879	562,622
減価償却累計額及び減損損失累計額	△402,081	△423,459
機械装置及び運搬具(純額)	126,798	139,163
土地	51,065	46,906
建設仮勘定	26,562	18,921
その他	74,926	72,627
減価償却累計額及び減損損失累計額	△61,131	△58,975
その他(純額)	13,795	13,652
有形固定資産合計	351,224	356,096
無形固定資産		
のれん	4,779	20,092
その他	33,912	33,116
無形固定資産合計	38,691	53,208
投資その他の資産		
投資有価証券	94,357	112,103
長期貸付金	601	524
繰延税金資産	8,549	17,277
その他	13,135	10,905
貸倒引当金	△278	△281
投資損失引当金	△616	△618
投資その他の資産合計	115,749	139,911
固定資産合計	505,666	549,217
資産合計	1,091,741	1,115,328

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	108,903	112,750
短期借入金	12,365	17,202
コマーシャル・ペーパー	—	20,000
1年内償還予定の社債	20,000	14,999
1年内返済予定の長期借入金	3,411	7,011
未払法人税等	20,590	6,035
賞与引当金	5,496	3,276
役員賞与引当金	325	204
その他	84,447	68,732
流動負債合計	255,541	250,213
固定負債		
社債	49,992	34,993
長期借入金	31,442	43,139
繰延税金負債	11,244	13,839
役員退職慰労引当金	517	404
環境対策引当金	380	347
退職給付引当金	28,796	—
退職給付に係る負債	—	67,988
資産除去債務	586	556
その他	21,528	21,151
固定負債合計	144,489	182,420
負債合計	400,030	432,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	112,757	83,443
利益剰余金	482,501	500,175
自己株式	△2,817	△3,601
株主資本合計	672,304	659,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,419	15,146
繰延ヘッジ損益	△141	320
為替換算調整勘定	△46,295	△26,768
退職給付に係る調整累計額	—	△24,763
その他の包括利益累計額合計	△37,017	△36,065
少数株主持分	56,423	58,878
純資産合計	691,710	682,693
負債純資産合計	1,091,741	1,115,328

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	746,856	742,322
売上原価	447,557	473,943
売上総利益	299,298	268,378
販売費及び一般管理費	238,367	217,565
営業利益	60,931	50,812
営業外収益		
持分法による投資利益	2,702	3,120
その他	4,467	6,360
営業外収益合計	7,169	9,480
営業外費用		
支払利息	1,479	1,562
その他	855	1,939
営業外費用合計	2,334	3,501
経常利益	65,766	56,791
特別利益		
受取保険金	1,701	1,184
厚生年金基金代行返上益	27,752	—
関係会社株式売却益	18,201	2,267
その他	660	340
特別利益合計	48,315	3,792
特別損失		
固定資産除却損	842	920
減損損失	7,312	230
関係会社整理損	—	772
その他	3,648	878
特別損失合計	11,802	2,802
税金等調整前四半期純利益	102,279	57,781
法人税等	42,767	16,575
過年度法人税等戻入額	—	△1,533
少数株主損益調整前四半期純利益	59,511	42,739
少数株主利益	5,063	5,690
四半期純利益	54,447	37,049

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	59,511	42,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,079	5,451
繰延ヘッジ損益	3	167
為替換算調整勘定	10,231	19,245
在外子会社の年金負債調整額	△25	—
退職給付に係る調整額	—	2,108
持分法適用会社に対する持分相当額	25	307
その他の包括利益合計	12,312	27,280
四半期包括利益	71,824	70,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,864	64,888
少数株主に係る四半期包括利益	6,959	5,131

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年5月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により平成25年5月9日から平成25年7月8日までに普通株式20,895,000株、29,999百万円の取得を行いました。

また、平成25年8月27日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式の消却を行うことを決議し、平成25年9月9日、普通株式20,895,000株を消却しております。これにより、資本剰余金および自己株式がそれぞれ29,313百万円減少しております。

消却後の当社の発行済株式の総数は、614,115,654株となります。

また、第1四半期連結会計期間より、退職給付会計基準等を早期適用しております。これに伴う影響については、P. 5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬			
売上高							
外部顧客に対する売上高	314,060	175,331	146,352	55,885	55,227	—	746,856
セグメント間の内部売上高	4,978	4,874	5,119	70	40,665	△55,708	—
計	319,038	180,205	151,472	55,955	95,892	△55,708	746,856
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	29,181	15,431	11,325	4,617	375	—	60,931

(注) 1. 「その他」には、提携事業、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

(注) 2. 総発売元取引の売上高の計上方法の変更に伴う遡及適用影響額及び報告セグメントの変更に伴う組替影響額を、前第3四半期連結累計期間の数値に反映して表示しております。変更の内容につきましては、「II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日) 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

2. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	440,859	152,427	88,896	64,672	746,856
連結売上高に占める比率	59.0%	20.4%	11.9%	8.7%	100.0%

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(注) 2. 総発売元取引の売上高の計上方法の変更に伴う遡及適用影響額を、前第3四半期連結累計期間の数値に反映して表示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「医薬」セグメントにおいて、医薬品製造設備等の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上

額は、当第3四半期連結累計期間においては7,280百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

カルピス社の全株式を譲渡したことに伴い、当第3四半期連結会計より同社を連結の範囲から除外しております。これにより、「国内食品」セグメントにおいて、のれんの額が18,040百万円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医薬			
売上高							
外部顧客に対する売上高	254,989	219,410	166,900	38,763	62,258	—	742,322
セグメント間の内部売上高	1,340	4,639	4,347	55	32,408	△42,792	—
計	256,330	224,049	171,247	38,819	94,666	△42,792	742,322
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	22,779	19,737	5,015	2,843	437	—	50,812

(注) 「その他」には、提携事業、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、当社はコーヒー・油脂事業等の、総発売元取引について、売上高及び売上原価を総額で計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更いたしました。当該会計方針の変更は遡及適用され、前第3四半期連結累計期間について遡及適用後の数値で表示しております。

また、コーヒー・油脂事業が含まれていた「提携事業」セグメントについて、当該会計方針の変更により売上高が減少して重要性が乏しくなることに伴い、第1四半期連結会計期間より、「国内食品」、「海外食品」、「バイオ・ファイン」、「医薬」、「提携事業」の5セグメントから、「提携事業」をその他に含めることにより、「国内食品」、「海外食品」、「バイオ・ファイン」、「医薬」の4セグメントに変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の数値を組み替えて表示しております。

前期数値の遡及適用影響額及び組替影響額双方の反映後の数値につきましては、「I 前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日） 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	370,079	186,504	108,691	77,046	742,322
連結売上高に占める比率	49.9%	25.1%	14.6%	10.4%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(参考情報)

所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	458,356	139,552	84,555	64,391	746,856
営業利益	33,161	16,640	7,861	3,268	60,931

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	388,915	173,978	103,597	75,830	742,322
営業利益	27,789	19,349	4,021	△346	50,812

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

米州: 北米及び南米諸国

欧州: ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 総発売元取引の売上高の計上方法の変更に伴う遡及適用影響額を、前第3四半期連結累計期間の数値に反映して表示しております。